

第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年1月

応募者名:兵庫県、神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市

事業の名称:山手幹線街路整備事業(震災復興事業)

実施都市名:神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市

事業目的

阪神間は、瀬戸内海に六甲山が迫る狭い地域に市街地が発達し、そこに東西交通の大動脈が集中しています。山手幹線は、神戸市長田区から尼崎市戸ノ内町を結ぶ延長約29.6kmの都市計画道路で、4市域にまたがる東西幹線道路です。

阪神・淡路大震災では、阪神高速神戸線の倒壊や国道43号の交通規制等により、国道2号に車両が集中し、大渋滞が発生したことから、避難、救援・救急、消防活動や緊急物資等の輸送に大きな支障をきたしました。震災当時の山手幹線は、神戸市を除く3市域で未開通区間(5.9km)があり、十分な機能を果たすことは出来ませんでした。

震災後、山手幹線の整備の気運は一気に高まりました。兵庫県と神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市が力を合わせ、震災復興の最重要路線として整備に取り組み、平成22年10月に芦屋川横断工区の供用により全線が繋がり、円滑な交通の確保と都市防災機能の向上を図りました。

事業概要

事業名称: 山手幹線街路整備事業(震災復興事業)

路線名: 山手幹線

事業箇所: 神戸市灘区～尼崎市戸ノ内町

事業延長: 8.9km*

*0.3km県市合同事業があり、事業者毎の延長の合計とは合わない。

幅員: 22～38m

事業費: 840億円

事業実施期間: 平成6年度* ～平成22年度

兵庫県 3工区 L=1625m 神戸市 3工区 L=3067m 芦屋市 3工区 L=2145m

西宮市 5工区 L=1950m 尼崎市 1工区 L=446m

事業箇所は、住環境が優れた地域であることから、環境に対する意識が高く、一部地域では住民の理解を得るために、活発な意見交換が行われた。地域との合意形成には特に配慮をしながら事業を実施した。工区毎に下記の色々な取り組みを行った。

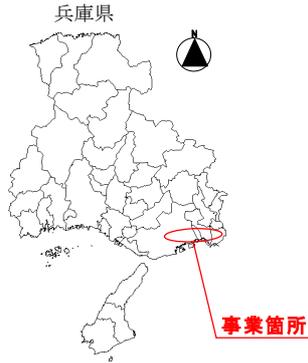
*平成6年度以前から着手している工区もあるが、震災復興事業ということで、着手年は平成6年度とした。

- ・住民説明会でCGやVR（バーチャルリアリティ）を活用し、理解しやすいように努めた。
- ・環境対策については、勉強会を行い、現況測定、環境予測、対策内容に関し協議を重ねた。
- ・一部の道路のポケットパーク整備では、住民参加のワークショップ形式で計画を策定した。
- ・一部工区では街づくりの視点から、行政と住民の間の橋渡しとして地域プランナーに入って進めた

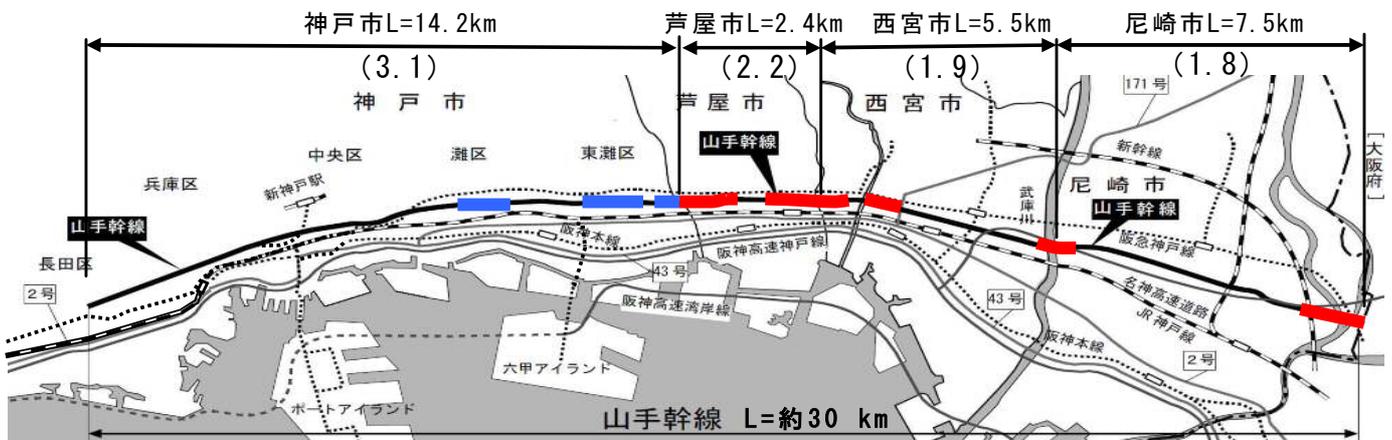
住民の参画と協働で整備を進めた工区では、開通前に地元自治会の主催で山手ふれあいロード交流事業「人と街と路のまつり」を開催するなど、地域が愛着を感じる街路整備を行った。

また、震災のあった1月17日には毎年、震災当時を思い起こしながら、防災意識を新たに、緊急時の避難路、救援路となる山手幹線を歩くイベント「メモリアルウォーク」が実施されている。全線開通した山手幹線を歩いた参加者から「道がきれいになり、随分、歩きやすくなった」との声があがった。

事業位置図

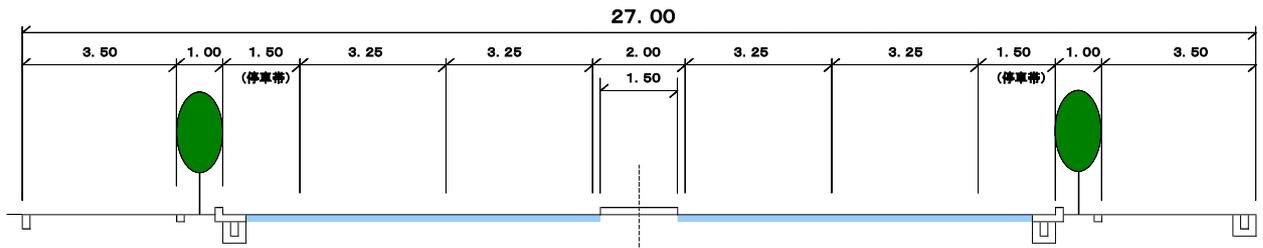


全体図(平面図・横断図)

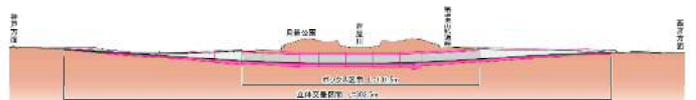
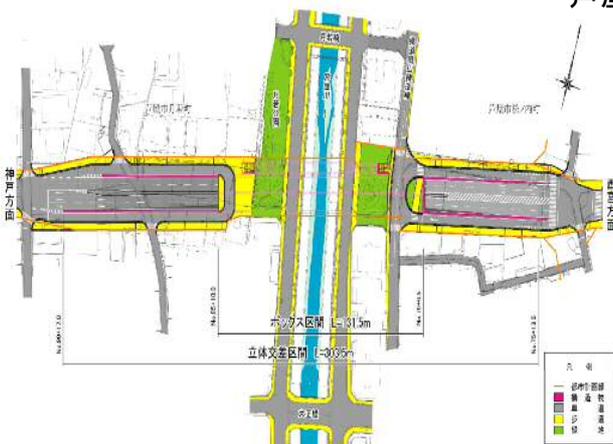


山手幹線整備状況

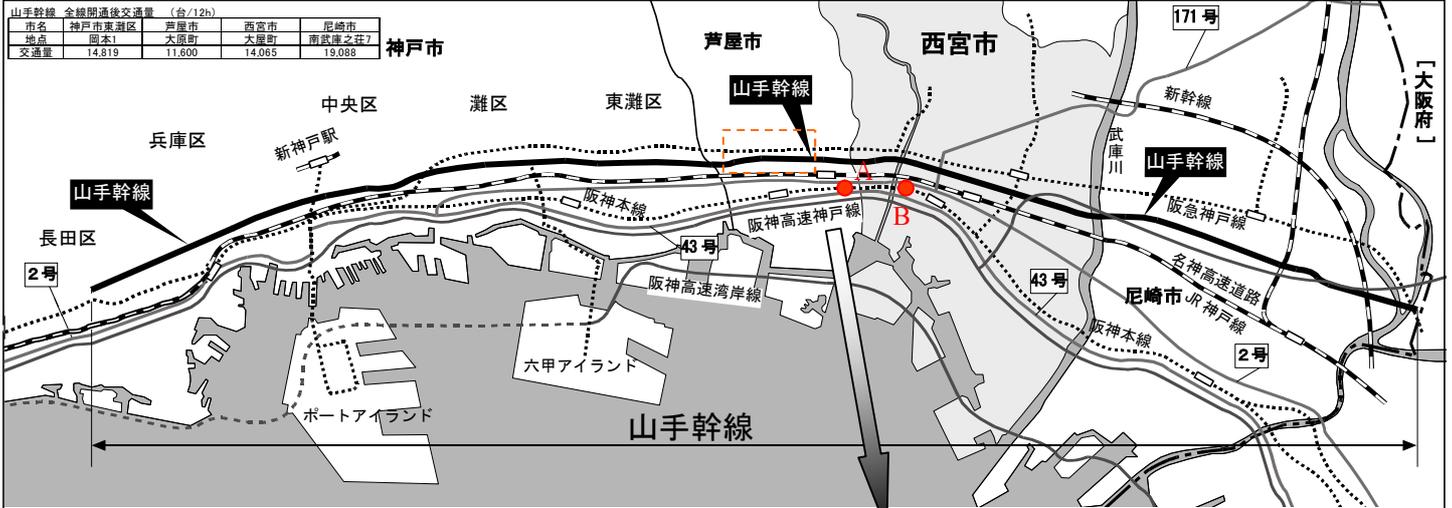
- : 平成6年度以降整備区間
- ※赤線は震災当時未開通の区間
- () : 平成6年度以降整備延長 (Km)



芦屋川横断工区

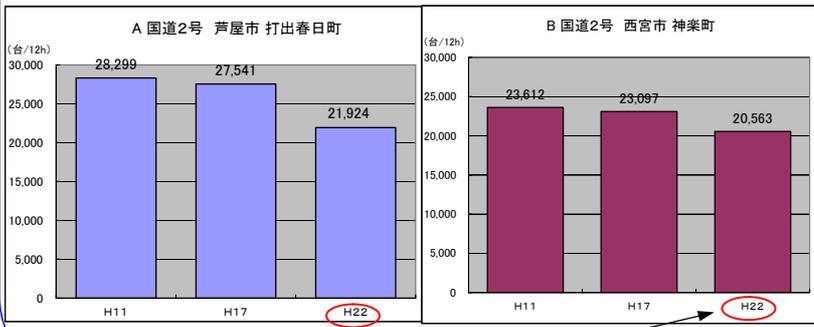


山手幹線の整備効果アピール資料



①国道2号(競合路線)の交通量の変化

慢性的に渋滞している国道2号から山手幹線へ交通転換されたことで、渋滞の緩和に寄与。芦屋市内で約2割、西宮市内で約1割の交通量が減少。



②周辺の生活道路の交通負荷軽減(上図参照)

(開通前) (開通後)
 市道367号線 3,058台/12h ⇒ 1,564台/12h
 市道359号線 5,714台/12h ⇒ 2,027台/12h

③渋滞交差点※の解消

「上宮川」交差点の南行きの渋滞長が減少
 200m → 50m

※兵庫県 渋滞交差点解消プログラム

④緊急輸送道路、避難路、救援路

山手幹線は、地震防災五カ年計画の「緊急輸送道路」に位置づけられている。災害時には、避難路と救援路の役割と併せて、都市防災機能の向上が図られた。

⑤地域に愛される街路

住民の参画と協働で整備を進めた工区では、開通前に地元自治会の主催でイベント「人と街と路のまつり」(写真1)が開催されるなど、地域が愛着を感じる街路整備ができた。



写真1 西宮市分銅町、寿町(H11.8.28)

⑥市境付近の消防・救急活動広がる

震災前は、山手幹線4市の市境3箇所全てで道路が未開通。道路がつながった事により、消防・救急活動がこれまで以上にスムーズに現地に到着できる。また、災害時など市境付近で活動が必要となった場合、両市の相互協力による消防・救急活動が可能となった。

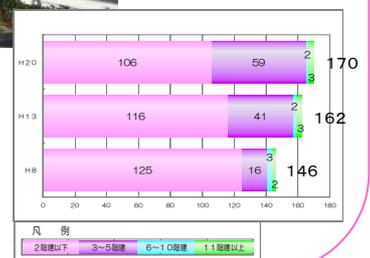
⑦沿道土地利用の活性化

西宮、尼崎市市内では、大型店舗の進出が相次いでいる。地区計画が定められている芦屋市では、住宅系が増加しており、特に3~5階建マンションが多く建設され、土地利用が増進している。



阪急西宮ガーデンズ

沿道建物階数区分別戸数の推移(芦屋市)



事業前写真



①事業箇所は閑静な住宅地(阪急夙川駅より東)



②事業箇所は閑静な住宅地(芦屋市月若町)



③神戸・芦屋市境で途絶



④芦屋・西宮市、西宮・尼崎市の市境付近も未整備(西宮市霞町)



⑤震災直後(芦屋市大原町)



⑥途絶箇所を迂回する車両で混雑する周辺道路(西宮市松園町)

事業後写真



⑦全線開通した山手幹線
線(阪急夙川駅より東)



⑧芦屋川隧道(芦屋市)
当工区の供用により悲願の山手幹線
が全線開通



⑨尼崎市と西宮市を結ぶ山手大橋
(西宮市～尼崎市)



⑩全線開通した山手幹線
(芦屋市大原町)



⑪沿道の自治会によって維持管理
していただいている道路内の花壇
(西宮市)



⑫阪神・淡路大震災のあった1月17日
には、緊急時の避難路、救援路となる
山手幹線を歩くイベント「ひょうごメモ
リアルウォーク」が毎年開催。毎年数千
名の参加者がある。



⑬山手幹線沿線には防災倉庫5箇
所、防火水槽が2箇所整備した。地
元の評判もよい(芦屋市)



⑭光触媒型吸音ブロックを用いた遮
音壁、歩道材料にも光触媒加工され
たものを使用。電線類地中化も実施
し、環境、景観に配慮(芦屋市)



⑮歩道内に整備したせせらぎ水路。
憩いの空間を提供。(神戸市)



⑯児童の通学路となっている戸ノ内
橋付近の歩道デザインは、地元が
選定。歩く楽しさを感じるケンパ模
様とした(尼崎市)